

いつもの風景のなかで終えていくために ～納得した意志決定をするとき～

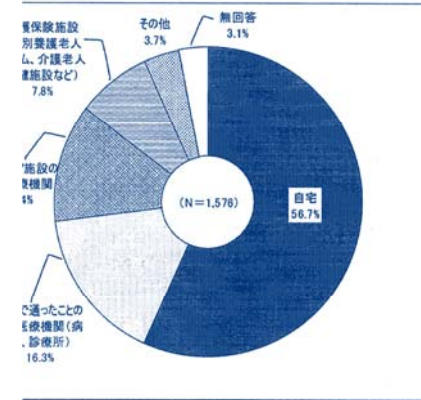


平成30年3月3日
 公社)香川県看護協会
 高松訪問看護ステーション
 長内 秀美

香川県における自分が最期を迎える場所についての住民の意識

香川県においては、自宅で自分の最期を迎えたい住民が56.7%を占めている。
 自宅以外で最期を迎えたい者においても、「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」(69.1%)、「自宅では緊
 急の対応が心配だから」(45.3%)を理由として選んだ方が多い。

【自分の最期を迎えたい場所】



【自宅以外で最期を迎えたい理由】

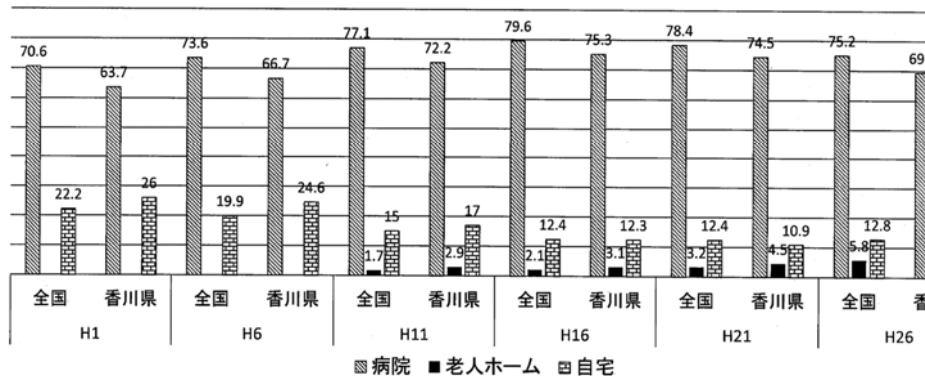
理由	割合 (%)
全体	100.0
(1) 自宅では家族の介護などの負担が大きいから	69.1
(2) 介護してくれる家族がないから	23.8
(3) 自宅で過ごすには、経済的に負担が大きいから	13.7
(4) 自宅では緊急時の対応が心配だから	45.3
(5) 住居や訪問看護、介護の体制が不十分だから	19.7
(6) 自宅での療養について家族が希望していないから	4.9
(7) それまでかかっていた病院や施設のもとで暮らしたいから	5.2
(8) 医師や看護師の訪問が精神的な負担になるから	4.4
(9) その他	8.8
無回答	5.4

グラフ単位: (%)
 出典: 香川県「平成27年度県政世論

※第5回香川県地域医療構想策定検討会 参考資料集②より
http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/dir1/dir1_5/dir1_5_1/whnac1160824083919

香川県における死亡の場所の推移

全国・香川県ともに、多くの方が病院で亡くなっている。
 自宅で亡くなる方は減少傾向にある一方、老人ホームで亡くなる方は増加傾向にある。



出典: 厚生労働省「人口動態

※第5回香川県地域医療構想策定検討会 参考資料集②より

県内地域別訪問看護ステーション



平成30年1月31日現在

東讃	西讃	中讃	高松・小豆	計
4	7	23	47	81

雲のように、時は流れていく



死を考えながら生きる姿勢

「生」のあるもの全てに死が訪れる



生きてきたように死んでいく

...のではなく

選択により人生は変わる

エンド・オブ・ライフケアとは

病気や老いによって、人生の終焉を迎える時期に提供される医療・看護・介護のこと。

疼痛や不安を和らげる緩和ケアに加えて、認知症や慢性疾患など幅広い疾患を対象に、本人が症状や治療方法を理解し、穏やかな最期を迎えられるよう支援する。

ACP <アドバンスケアプランニング>



本人の意志



これから重篤な病気や状態になったときに、どこでどうやって過ごしたいかを話し合うプロセス



意志決定とは

人生を生きるために



幾つかの代替え案から、
自分にとって最適なものを選ぶこと

意志決定で悩むこと

1. もっと、いい治療方法はないか
2. 幾つかの選択肢を言われたが、
分からないし、決められない
3. 自分と家族の意見が合わない



選択肢について

- ・治療の継続
- ・治療方法の変更
- ・治療の中止か終了



医師から詳しく説明を受ける
納得できるまで、何度でも!!

これからの希望とは

治ることではなく



前を向いて生きること



自宅での療養生活



- ・ご本人と家族の思いを整える
- ・在宅療養への支援チームの体制づくり
往診医・訪問看護師・介護支援専門員
薬剤師・介護士・福祉用具専門相談員
- ・家族の不安や悩み、つらい時にも相談する
- ・‘揺れる思い’もあり、決めつけて開始しない

最期のときを考える

- ・ご本人の想いを尊重する
- ・自分らしい生活ができるようにする
- ・家族の生活も配慮する
- ・どのようにして行きたいかの情報を在宅支援チームと共有する
- ・痛みや倦怠感などの不快な症状は、相談し取り除いてもらえるようにする

「死」を四つの側面から

- ・心理的な「死」 生きる喜びを失う
- ・社会的な「死」 社会との接点が失われる
- ・文化的な「死」 人間らしい文化的潤いが失われる
- ・肉体的な「死」

総合的な延命をはかり、最期の瞬間まで
その人のQOLを高めるケアを行っていくこと



「心を癒す言葉の花束より」
アルフォンス・デーケン著

参考文献

- 1)『患者中心の意思決定支援』
中山和弘・岩本貴 編 2015 中央法規出版株式会社
- 2)『いま、希望を語ろう』
ポール・カラニシ 著/田中文 訳 2016 早川書房
- 3)『ご家族のための在宅療養ガイド』
渡邊清高 編著 2016 株式会社日本医学出版
- 4)『心を癒す言葉の花束』
アルフォンス・デーケン 著 2012 集英社